

申込受付期間 1次募集: 3月16日(金)10:00~3月22日(木) お申込み多数の場合は抽選となります
2次募集: 定員に達していない場合のみ各回実施日の2日前まで受付

定員各回 100名 (最少開講人数 50名)

フリガナ	受講者 ID(お持ちの方)		
ご氏名	0	0	
ご住所 〒	性別	男・女	年齢 歳
	生年月日(西暦) 年 月 日		
TEL(自宅)	FAX		
TEL(携帯)	E-mail		

※FAXでお申込みの際はこの面を送信してください。

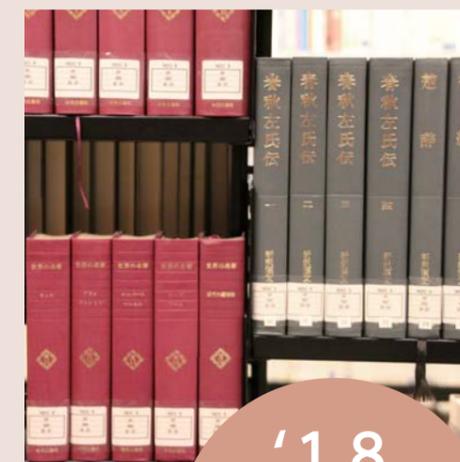
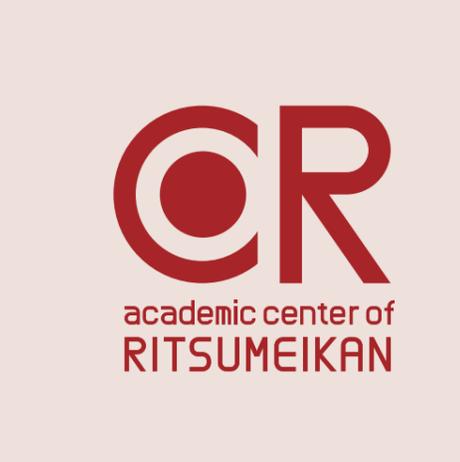
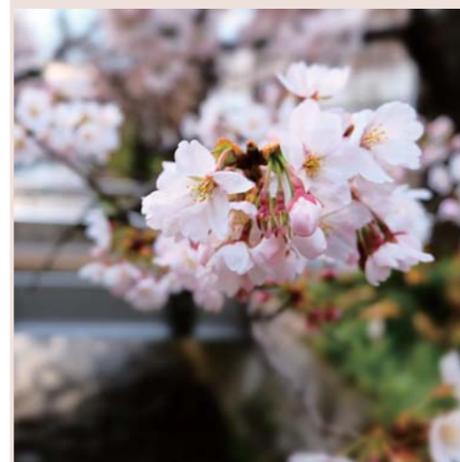
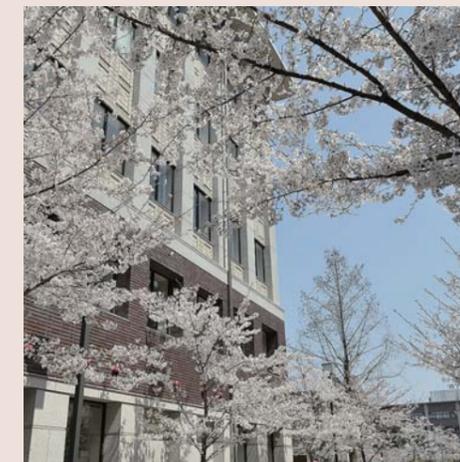
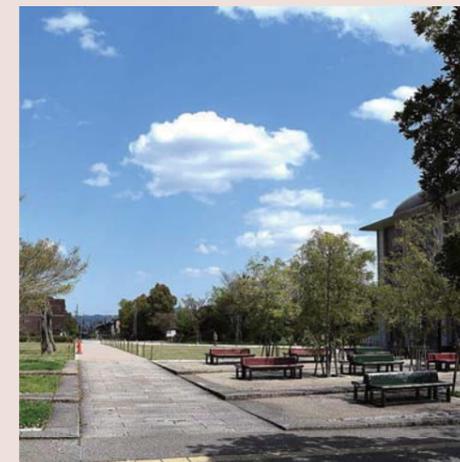
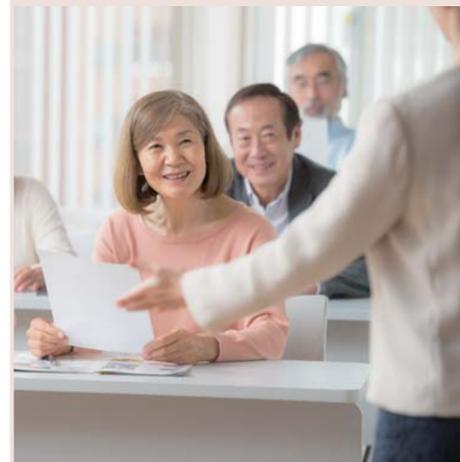
▼希望する受講日該当欄に○印をつけて下さい。 FAX 06-6360-4894

講座名・講師	1回受講料	希望する受講日該当欄に○印をつけて下さい。					
P 1. 「食」から読み解くヨーロッパの歴史 南 直人	1,700円	全3回一括	第1回 4月13日(金)	第2回 5月11日(金)	第3回 6月1日(金)		
P 2. 宰相の系譜 鶴養 幸雄	1,700円	全3回一括	第1回 4月17日(火)	第2回 5月15日(火)	第3回 6月19日(火)		
P 2. 現代世界におけるイスラームを考える 末近 浩太	1,700円	全3回一括	第1回 4月18日(水)	第2回 5月16日(水)	第3回 6月20日(水)		
P 2. 海を渡った「きもの」文化 鈴木 桂子	1,700円	全3回一括	第1回 4月19日(木)	第2回 5月17日(木)	第3回 6月21日(木)		
P 3. 争乱と異変の日本古代史 本郷 真紹	1,700円	全3回一括	第1回 4月20日(金)	第2回 5月18日(金)	第3回 6月15日(金)		
P 3. 『論語』を読む 加地 伸行	1,700円	全3回一括	第1回 4月26日(木)	第2回 5月24日(木)	第3回 6月28日(木)		
P 4. 都市の在り方 —大阪の曲り角 木津川 計	1,800円	全3回一括	第1回 4月27日(金)	第2回 6月22日(金)	第3回 8月24日(金)		
P 4. 日本の「道」を考える 安斎 育郎	1,800円	全3回一括	第1回 5月8日(火)	第2回 7月10日(火)	第3回 9月11日(火)		
P 5. 大阪・京都文化講座(春期) 講座で巡る京都・大阪 — 一円の寺々	1,700円	全8回一括	第1回 5月14日(月)	第2回 5月21日(月)	第3回 5月28日(月)		
			第4回 6月4日(月)	第5回 6月11日(月)	第6回 6月18日(月)		
			第7回 6月25日(月)	第8回 7月2日(月)			
P 3. 一気通貫! 日本史講座 高杉 巴彦	1,700円		第1回 6月8日(金)	申込回数	計: 回		

切り取り線

立命館アカデミックセンター

おとなの学び舎



会場 立命館大阪梅田キャンパス (大阪富国生命ビル5階)
〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4

[お問合せ・お申込み先]

立命館アカデミックセンター事務局 (大阪富国生命ビル14階)

<http://www.ritsumeai.ac.jp/acr/>

TEL: 06-6360-4804 (窓口時間 月~金 10:00~17:00)

FAX: 06-6360-4894 E-mail: acr02@st.ritsumeai.ac.jp

※お電話・メールでのお申込みはできません。



アクセス

地下鉄谷町線 東梅田駅 徒歩1分
地下鉄御堂筋線 梅田駅 徒歩3分
阪神 梅田駅 徒歩3分
JR 大阪駅 徒歩5分
阪急 梅田駅 徒歩5分



総合案内

'18
春号



「おとなの学び舎」は、さまざまな学びを深く楽しく体験したい皆様のための開かれた学舎です。2018年度から、3ヶ月を1期として、1年間4期(春期・夏期・秋期・冬期)で講座を開講します。この春は、10講座を立命館大阪梅田キャンパスにてご用意しました。知的興奮に満ちた新学期が、あなたのお越しをお待ちしています。

<ご友人紹介キャンペーン>始めました

今年の春はご友人と共に「おとなの学び舎」で新しい知識の芽を育ててみてはいかがでしょうか。詳しくは6ページをご覧ください。

「食」から読み解くヨーロッパの歴史

ご友人紹介キャンペーン対象講座(P6.ご参照) 春期全3回



講師 南直人 京都橘大学文学部教授 (2018年4月から立命館大学食マネジメント学部就任予定)

京都大学文学部卒業。大阪大学大学院修了。博士(文学)。主な著作：『<食>から読み解くドイツ近代史』(ミネルヴァ書房、2015年)、『世界の食文化⑩ドイツ』(農文協、2003年)、『身体はだれのものか』(昭和堂、2018年刊行予定)。

受講料1回 1,700円
ネット一括申込 4,500円
※3回分をインターネットで一括申込される場合 割引

実施時間 各回 14:00 ~ 15:40 ※質疑応答あり

第1回

4月13日(金)
食からみた
ヨーロッパの歴史

第2回

5月11日(金)
食からみた
ヨーロッパ近代社会

第3回

6月1日(金)
食に関わる行動規範の
歴史的变化



立命館アカデミックセンター おとなの学び舎2018年春期 申込概要

インターネットでのお申込み

3月16日(金)10:00~受付開始

立命館アカデミックセンターホームページで受付

URL: <http://www.ritsumeikan.ac.jp/acr/>



①立命館アカデミックセンターホームページからお申込み下さい。
※お申込み後、自動返信メールが届きます。3営業日を過ぎて自動返信メールが到着しない場合は、裏面お問い合わせ先にご連絡下さい。
※以下の端末からお申込みできません。docomo(iモード)、au(Ezweb)、SoftBank(3G ケータイ)、Internet Explorer 7 以前のブラウザなど。

②[1次募集]お申込み多数の場合は抽選を行います。抽選結果はお申込みの方全員に4月上旬にメールにてお知らせいたします。[2次募集]定員に達していない場合のみ先着順で受付いたします。
③お支払はクレジットカード払いのみとなります。
※JCB・VISA・Master Card・American Express をご使用いただけます。

FAX・郵送でのお申込み

3月16日(金)10:00~受付開始

①「受講申込書(裏面申込書)」に必要事項を記入のうえ、FAXでお送りいただくか、ご郵送下さい。※3月22日(木)必着
※お電話・メールでのお申込みはできません。
②[1次募集]お申込み多数の場合は抽選を行います。抽選結果はお申込みの方全員に4月上旬に郵送にてお知らせいたします。
[2次募集]定員に達していない場合のみ先着順で受付いたします。

③ご当選の方には「受講受付確認書」「郵便払込票」をお送りいたしますので、受講料を納入(郵便払込)願います。
※事務局窓口にて現金で納入することはできません。
※払込手数料は申込者のご負担をお願いいたします。
※事務局より受講料納入確認の通知は行いません。

障害・病気等で受講の際の配慮を希望する方へ

障害・病気等で受講の際の配慮を希望される場合は、お申込みの際に事務局へお申し出ください。申し出の内容に関わる情報については、立命館アカデミックセンター事務局および関連部署間で共有します。事前相談も受付しています。
※なお、いただきましたお申し出すべてにお応えできるものではありません。あらかじめご了承ください。

お申込みにあたっての注意事項

◎申込み後のキャンセル、払い戻しはお受けできません。
◎代理受講は認めておりません。また欠席講義の他講座へのお振替はできません。
◎欠席や遅刻に対する返金は一切お受けできません。
◎自然災害や交通機関のトラブルなど不可抗力の事情や講師の病気により、休講や開講日を変更することがあります。
事前に休講もしくは開講日の変更が判明した場合は、お知らせいたします。その場合の受講料の払い戻し、旅費や宿泊費のキャンセル費用などについては補償できません。但し、上記以外の立命館アカデミックセンターの責に帰すべき事由により不開講となった場合は、受講料を返金します。
◎本講座を修了しても、立命館大学並びに大学院の単位認定、また文部科学省並びに他の公式機関が認定する単位及び学位の授与は行われません。
◎講義の録音・録画・画像のコピー、教材の無断複写および配布はお断りいたします。

◎立命館アカデミックセンターでは、「個人情報の保護に関する法律」および「学校法人立命館個人情報保護規程(※)」を遵守し、立命館アカデミックセンターが収集する個人情報、講座運営や講座分析に関する業務のみに使用します。また収集する個人情報は、本法律、本規程に則り、漏洩・滅失・毀損等がないように安全に管理します。
※こちらでご確認いただくことができます。
http://www.ritsumeikan-trust.jp/info/privacypolicy/g01_j/
◎立命館アカデミックセンターは、本法律・本規程に定める場合を除き、個人情報を予め本人の同意を得ることなく第三者に提供することはありません。
◎立命館アカデミックセンターは、個人情報の取り扱いを含む業務の一部を個人情報の適切な取り扱いに関する契約を締結した上で、次の事業者に委託しています。

委託先 株式会社クレオテック(学校法人立命館100%出資会社)

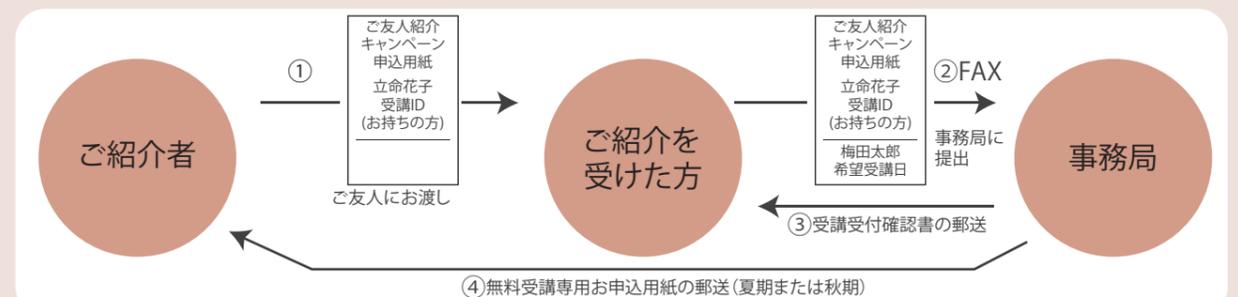
ご友人紹介キャンペーン

ご友人紹介キャンペーンとは、ご紹介者のご家族・ご友人を立命館アカデミックセンターが開催する「おとなの学び舎」に1回無料でご招待する制度です。

対象 ご紹介者(立命館大阪梅田キャンパスで受講歴がある方)
ご紹介を受けた方(立命館大阪梅田キャンパスで受講歴がない方)

特典 ご紹介者：夏期もしくは秋期開講講座から1回無料で受講いただけます。
ご紹介を受けた方：春期開講講座から1回無料でご招待いたします。

ご紹介方法
●ご紹介者
「ご友人紹介キャンペーン申込用紙(別紙)」にご氏名・受講者ID(お持ちの方)をご記入の上、ご友人にお渡しください。(※ご紹介者様の氏名が記入されていない場合は無効となります。)
ご紹介を受けた方が受講された後、ご紹介者様には夏期もしくは秋期講座の募集案内とともに無料受講専用のお申込用紙を送付します。専用のお申込用紙に掲載された講座から1つお選びいただき、FAXにてお申込ください。(※ご友人紹介は2名までとします。ただし、無料で受講できる講座は1回のみです。)
●ご紹介を受けた方
「ご友人紹介キャンペーン申込用紙(別紙)」に必要事項をご記入の上、「ご友人紹介キャンペーン申込用紙(別紙)」に掲載された講座からご希望の受講日を第2希望まで記入いただき、FAXにてお申込ください。どちらか無料で受講いただけます。



京都・大阪を中心に観光客、特に外国人観光客が極めて増えている昨今。大阪の食が目当ての方もおられるでしょう、京都の「SNS映え」する風景を堪能される方もおられると思いますが、総じていえば、京都や大阪の魅力はその文化ということになると思います。そして、その京都・大阪の文化の大きな部分を形作ってきたのは、神社やお寺であると言っても過言ではないでしょう。本講座では京都と大阪、そしてその周辺の仏教寺院について、歴史から美術まで、様々な学問的な切り口で語ってまいります。講座をお聞きいただいた後に、現地のお寺を参拝、拝観いただければ、なお一層理解が進むことと思います。



OSAKA UNIVERSITY

共催 大阪大学大学院文学研究科・大阪大学共創機構社会学共創本部21世紀懐徳堂・立命館大学文学部

コーディネーター

大阪大学大学院文学研究科教授 金水 敏
立命館大学文学部教授 上野 隆三

受講料1回 1,700円

ネット一括申込 12,000円

※8回分をインターネットで一括申込される場合

実施時間 各回 14:00～15:40 ※質疑応答あり

第1回 5月14日(月) 律宗長福寺と空也堂 ― 神泉苑南面の異空間

講師 東島 誠 立命館大学文学部教授

京都盆地はもと湖底。善女竜王の棲む神泉苑の池は平安京の(へそ)に当たります。御霊会、空海、百鬼夜行と、多くのエピソードがありますが、今回は後醍醐天皇を支えた律宗勢力、また空也念仏の世界が創り出した、神泉苑南面の異様な空間にスポットを当てます。

第2回 5月21日(月) 稀代の名僧・奇僧明恵上人と高山寺

講師 中山 一麿 大阪大学大学院 文学研究科招へい研究員

承安3年(1173)1月に紀州で誕生した明恵。奇しくもその三ヶ月後に誕生した親鸞。同年の二人であるが、その生きた時代の立場と今日的な世評とは完全に逆転してしまいました。超常的であった明恵に対する後世における人物形象と高山寺の歴史にその因を探ってみます。

第3回 5月28日(月) 東寺の密教美術とその源流

講師 西林 孝浩 立命館大学文学部教授

大同元年(806)に唐から帰国した空海は、弘仁十四年(823)に東寺(教王護国寺)の運営を任せられ、後に花開く密教美術の基礎を築きました。本講座では、東寺に残る平安時代初期の密教美術を出発点とし、中国や密教美術の始まりの地であるインドへと、源流を遡りながら、その魅力に迫りたいと思います。

第4回 6月4日(月) 天野山金剛寺の歴史と文化財

講師 勢田 道生 大阪大学大学院文学研究科准教授

河内長野市の天野山金剛寺は奈良時代の開基と伝える真言宗の寺院で、南北朝時代の南朝行宮の地として、また名酒・天野酒の産地としても知られています。本講座では、金剛寺の歴史を解説した上で、同寺に伝わる文化財や、近世以後の名所案内に記される金剛寺の姿を紹介します。

第5回 6月11日(月) 勝尾寺と瀧安寺 ― 北摂箕面の山岳寺院 ―

講師 大田 壮一郎 立命館大学文学部准教授

古寺と言えば京都・奈良がまず思い浮かびますが、ここ大阪の北部にも古代以来の名刹があります。今も瀧や紅葉の名所として知られる勝尾寺・瀧安寺は、長い歴史の中で時に観音霊場として時に修験の聖地として人々の信仰を集めました。本講座では、古代から近世に至る両寺の変遷について考えます。

第6回 6月18日(月) 興福寺の鎌倉復興 ― 運慶と父康慶の仏像を中心に ―

講師 藤岡 穰 大阪大学大学院文学研究科教授

1180年、平重衡の兵火により東大寺、興福寺が焼亡しました。本講ではそのうち興福寺の復興の経緯をたどりますが、なかでも運慶の父康慶が担当した南円堂の諸仏、運慶が担当した西金堂本尊と北円堂の諸仏を中心にとりあげ、それぞれが目指していたものを表現から探ります。

第7回 6月25日(月) 西文氏と南河内の古代寺院 ― 西琳寺・葛井寺・野中寺 ―

講師 本郷 真紹 立命館大学文学部教授

古代の街道沿いに位置した南河内の地方は、渡来人・王仁の後裔氏族である西文氏の本拠で、その一族の建立にかかると西琳寺・葛井寺・野中寺といった古代寺院が多く所在しました。これらの寺院の性格を通じて、南河内の古代宗教文化について考えます。

第8回 7月2日(月) 中世延暦寺の世界 ― 文化的パワーと政治的パワー

講師 平 雅行 京都学園大学人文学部特任教授

中世ではあらゆる学問が宗教と融合しており、延暦寺では狭い意味での仏教だけでなく、和歌・儒教・医学・農学・土木技術など多様な学問が教えられていました。さらに延暦寺は政治的経済的なパワーに卓越していました。文化・政治・経済など諸側面から、中世延暦寺の多面的な世界を紹介します。



明治維新から150年、原敬内閣成立から100年という節目の年に、改めて近代日本の政治行政に大きな足跡を残した代表的な政治家を取り上げ、その背景となった思想、現実の内閣・行政における業績、発揮した政治的リーダーシップの特徴等について、ライバルであった政治家たちとも対比しつつ、その人物像の浮き彫りを試みる。

講師 鷗養 幸雄 立命館大学公務研究科教授

1955年生まれ。東京大学法学部(政治コース)卒。国家公務員(人事院を中心に、外務省などで勤務)を経て、2007年から立命館大学公務研究科教授に就任、現在に至る。近現代の政治行政(内閣制度の成立と戦前・戦後を通じた変容、官吏・公務員制度、戦前・戦後の行政等)について研究を行う。

受講料1回 1,700円

ネット一括申込 4,500円

※3回分をインターネットで一括申込される場合

実施時間 各回 14:00～15:40 ※質疑応答あり

第1回 4月17日(火) 西郷隆盛・国の土台作りの功労者

第2回 5月15日(火) 伊藤博文・内閣創設と発展に寄与

第3回 6月19日(火) 大隈重信・政党政治実現への模索

夏期

第4回～第6回概要・申込は夏期募集案内に掲載します。

第4回 7月17日(火) 原敬・政党政治の成熟と二大政党

第5回 8月28日(火) 犬養毅・政党政治の終焉と軍部

第6回 9月18日(火) 西園寺公望・近代政治の後見人



現代世界においてイスラームの存在感はますます大きくなっており、日本で暮らす私たちもその信徒と接する機会が増えています。一方、中東や欧州では、イスラームを掲げる組織や団体の存在感が増しており、社会や政治のあり方を左右するようになっています。本講義では、イスラームとは何か、その基礎を学ぶと同時に、現代世界におけるその意義について考えていきます。

講師 末近 浩太 立命館大学国際関係学部教授

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科5年一貫制博士課程修了(博士)、専門は中東・イスラーム地域研究、国際政治学、比較政治学。主な著書に『イスラーム主義：もう一つの近代を構想する』(岩波新書、2018年)、『比較政治学の考え方』(有斐閣、2016年、共著)など。

受講料1回 1,700円

ネット一括申込 4,500円

※3回分をインターネットで一括申込される場合

実施時間 各回 14:00～15:40 ※質疑応答あり

第1回

4月18日(水)

イスラームとは何か

第2回

5月16日(水)

現代中東における「宗教と政治」

第3回

6月20日(水)

イスラーム主義の挑戦



着物が海外に紹介されてから4世紀以上経っています。本講座では、海を渡っていった様々な「きもの」文化を歴史的に追っていき、日本人の衣服としての「きもの」が、当時どのように理解され、異文化に受容され、発展していったのか、またそれが海外での日本のイメージ形成とどのように関係していたのかを探っていきます。

講師 鈴木 桂子 立命館大学衣笠総合研究機構教授
立命館大学アート・リサーチセンター副センター長

米国ニューヨーク大学大学院人文科学大学院人類学部修士課程及び博物館学プログラム修了。ウィスコンシン大学マディソン校大学院人類学部博士課程修了。Ph.D.(人類学)。専門は文化人類学、日本文化史。視覚文化・物質文化に表象される異文化理解・異文化交流、コスチュームのグローバル・ヒストリーを研究中。2012年より現職。

受講料1回 1,700円

ネット一括申込 4,500円

※3回分をインターネットで一括申込される場合

実施時間 各回 14:00～15:40 ※質疑応答あり

第1回

4月19日(木)

江戸時代の「きもの」文化とオランダ貿易

第2回

5月17日(木)

近代の「きもの」文化とジャポニスム

第3回

6月21日(木)

20世紀の「きもの」文化と国際化

争乱と異変の日本古代史

ご友人紹介キャンペーン対象講座(P6.ご参照) 春期・夏期各3回 全6回



7・8世紀、中国や朝鮮半島の王朝に倣い、大和の王権が中央集権体制を志向し、律令国家が成立する。その過程で、また成立後の段階で、さまざまな争乱と異変が発生したが、それは往々にして、王権内部の矛盾や混乱と関係するものであった。本講座では、両世紀に生じたさまざまな争乱と異変を取り上げ、それが如何なる歴史的意義を有したか、考察を試みたい。

講師 本郷 真紹 立命館大学文学部教授

大阪市出身。87年京都大学大学院文学研究科博士課程修了。京都大学博士(文学)。富山大学人文学部助教授、立命館大学文学部助教授を経て、現在同教授。学校法人立命館常務理事、副総長等を歴任、現在理事補佐。専攻は日本古代史・宗教史、特に古代王権と宗教の関係、神仏習合過程を主要な研究テーマとする。

受講料1回 1,700円
ネット一括申込 4,500円
※3回分をインターネットで一括申込される場合

実施時間 各回 14:00～15:40 ※質疑応答あり

- 第1回 4月20日(金) 乙巳の変―大化改新―
- 第2回 5月18日(金) 壬申の乱
- 第3回 6月15日(金) 長屋王の変

夏期 第4回～第6回概要・申込は夏期募集案内に掲載します。

- 第4回 7月20日(金) 藤原広嗣の乱
- 第5回 8月10日(金) 恵美押勝(藤原仲麻呂)の乱
- 第6回 9月21日(金) 藤原種継暗殺事件

『論語』を読む

ご友人紹介キャンペーン対象講座(P6.ご参照) 春期・夏期・秋期・冬期各3回 全12回



生活において、その基本の中の基本は、国語です。その国語の基本は古典です。古典の中に、国語を作ってきたわれわれの心が秘められています。自分の心が、実は古典と裏表をなしています。その古典を読みましょ。読んでゆくうちに、自分の心が現れてくることに驚くこととなります。古典の中の古典である論語を静かに読んでゆきましょう。※本講座は2018年大人の学び舎(新春)『論語を読む』(全3回)の続編です。今回初めて学ばれる方もお申込みできます。

講師 加地 伸行 立命館大学白川静東洋文字文化研究所研究顧問

1936年大阪生まれ。1963年京都大学大学院文学研究科修了。文学博士。大阪大学名誉教授。専門は中国哲学史。著書に『中国論理学史研究』『中国人の論理学』『儒教とは何か』など。

受講料1回 1,700円
ネット一括申込 4,500円
※3回分をインターネットで一括申込される場合

実施時間 各回 14:00～15:40 ※質疑応答あり

- 第1回 4月26日(木)
- 第2回 5月24日(木)
- 第3回 6月28日(木)



使用テキスト

『論語 増補版』 加地伸行著
講談社学術文庫 1,652円(税込)
※講義ではレジュメ配布をいたしません。書店でテキストを購入の上ご参加下さい。

夏期 第4回～第6回概要・申込は夏期募集案内に掲載します。

- 第4回 7月26日(木)
- 第5回 8月23日(木)
- 第6回 9月27日(木)

一気通貫!日本史講座

～「学校日本史」はどのように教えられて来たか～

ご友人紹介キャンペーン対象講座(P6.ご参照) 春期1回 夏期・秋期・冬期各3回 全10回



過去(昭和)と現在(平成)の歴史教科書の対比から、歴史学研究的進展を学ぶとともに、歴史認識の到達点に対応した記述の変化と、なおかつずれている教科書事例がなぜなのかを考える。現在の生徒たちがどう学んでいるかを知って、若者の歴史認識の現状がどのような状態にあるかを考える。

講師 高杉 巴彦 池坊短期大学学長
立命館大学国際平和ミュージアム元館長

1946年中国生まれ。立命館大学大学院文学研究科修了。立命館慶祥高校(札幌)創業校長。学校法人立命館常務理事。立命館アジア太平洋大学副学長。立命館大学国際平和ミュージアム館長。立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所副所長。京都府立堂本印象美術館副館長。北星学園大学文学部教授。池坊短期大学学長。専門は日本近代史、教育史、教育行政論。

受講料1回 1,700円

実施時間 各回 14:00～15:40 ※質疑応答あり

- 第1回 6月8日(金) 日本人はどこから来たのか

夏期 第2回～第4回概要・申込は夏期募集案内に掲載します。

- 第2回 7月6日(金) 領土問題はどうか書かれているのか
- 第3回 8月3日(金) やっと見直された「聖徳太子」
- 第4回 9月7日(金) その時、歴史は変わったのか―大化の改新・鎌倉政権成立に見る―

2018年度 木津川計 都市の在り方 ―大阪の曲り角

春期・秋期各3回 全6回



明治から数えて百五十年、呐喊の時代を走り抜けてきた。おおいなる変貌が見舞い、何度もの転換点や曲り角がこの都市の像を塗りかえ続けた。大阪だけではない。日本を大きく変えた事象もあった。得たもの、失ったもの、差し引いた総和がいまの大阪である。音楽家や作家、あらゆるクリエイターは批評を求め、評判を気にする。評価の無風地帯に置かれて人は精進し得ようか。検証されざる都市も同様だ。住む都市、働く都市の永遠を願わない人は、減りざる巨大都市のために私たちの都市経営能力がためされている。理性を働かせ、知性に頼り、行動を促し、大阪の明日を輝かせたい。

講師 木津川計 上方芸能評論家 立命館大学名誉教授

1935年生まれ。大阪市立大学文学部卒。自ら創刊し、編集長を務めた雑誌『上方芸能』は、京阪神の芸能や大阪文化を広く紹介・論評する専門誌として48年の歴史を持つが、2016年6月、200号を機に終刊した。現在は、NHKのラジオエッセイ(関西エリア)をレギュラーで毎週担当するほか、「木津川計の一人語り劇場」を主宰して新国劇や新派、歌舞伎の名作などを各地で口演している。全国日本学士会アカデミア賞、京都市芸術功労賞、菊池寛賞受賞。

受講料1回 1,800円
ネット一括申込 4,500円
※3回分をインターネットで一括申込される場合

実施時間 各回 14:00～15:30

- 第1回 4月27日(金) 大阪遷都論と言葉のヒエラルキー

尊王攘夷派と佐幕派の戦いで大揺れの最中、維新の立役者・大久保利通は大阪遷都論を主張するが、江戸遷都論に屈し、首都にされた東京のグレードが高まっていった。なぜ大阪遷都は実現しなかったのか。一方、言葉の階層化が進んだ。もし大阪が首都になっていたら、大阪弁が標準語になっていた。“おもろい言葉”といわれる大阪弁を見直したい。

- 第2回 6月22日(金) 小林一三と宝塚型文化

大阪の文化類型は四つある。(1)河内型文化、(2)船場型文化、(3)宝塚型文化、(4)千里型文化である。この国の二大興行資本一松竹と東宝は共に関西系企業だ。が、松竹が興行プロパーであるにひきかえ、東宝は宝塚歌劇を生み、盛り場や街をつくった。それは大阪に欠落した文化類型の形成に他ならなかった。阪急王国を構築した東京人・小林一三の輝きと功績であった。

- 第3回 8月24日(金) 谷崎潤一郎と大阪のイメージ

「(大阪の作家から)郷土賛美の文学は生まれぬ。のしり、さげすみながら、この上なく執着する(山本健吉)」定説は今も崩れない。が、東京から移住した“よそ者”・谷崎潤一郎が修正した。わけても名作『細雪』は減りゆく船場への切なる思慕であった。一葉は育たず、荷風もまた、大阪が得た、一抹の栄華であった。

秋期 第4回～第6回概要・申込は秋期募集案内に掲載します。

- 第4回 10月26日(金)
ゴースト事件と破滅への道
- 第5回 12月21日(金)
ど根性とがめついの誕生―高度成長へ
- 第6回 2019年2月22日(金)
70年日本万国博と深層海流

2018年度 安斎育郎 日本の「道」(どう)を考える ―宗教・文化・スポーツを通して

春期・秋期各3回 全6回



日本の「道」と言っても東海道や北海道の話ではない。日本には、神道・仏道・修験道、政道、歌道、香道、武道(剣道・柔道・角道(相撲道)・合気道など)、書道、華道、茶道、芸道、画道など、「道」のつく言葉がたくさんある。荘子は「宇宙を支配する原理を『道』』と言ったそうだが、「首」(人間)＋「しんによう」(行く)からなる「道」の字は、「人が行きつ戻りつを繰り返しながら得た最高至善のもの」を意味するとも言われる。「道徳」は、利己的・本能的欲求と普遍的・社会的価値の対立の中で、「あるべき道」を指し示す規範だが、「武術」と「武道」の違いなどを考えるにつけ、日本のいろいろな「道」を「道徳」の視点から見ることは面白いだろう。勝ちあいつてもんじゃない!?

講師 安斎 育郎 立命館大学名誉教授 安斎科学・平和事務所(ASAP)所長
立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長

専門は、「放射線防護学」「平和学」。東京大学工学部原子力工学科卒(第1期生)、工学博士。立命館大学経済学部、国際関係学部教授を経て、2008年より立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長。2013年、日本平和学会第4回平和賞受賞。福島原発事故後は、毎月福島を訪れ、放射線量測定や食料汚染検査、相談活動など被災者に寄り添った活動を行っている。

受講料1回 1,800円
ネット一括申込 4,500円
※3回分をインターネットで一括申込される場合

実施時間 各回 14:00～15:40 ※質疑応答あり

- 第1回 5月8日(火) 神道・仏教・陰陽道・修験道―日本の神と仏の間

以前、W・ディートリッヒ編集『平和研究―文化的視座』に、“Heiwa - A Shinto Perspective”(平和―神道の視点から)という論文を書いたことがあった。日本の神道と仏教が緩な歴史を平和の視点からまとめたものだ。さて、日本では「神」と「仏」はどんな関係なのか?

- 第2回 7月10日(火) 武道と武術、柔道と柔術―「道」スポーツの国際化の波の中で

昨秋、両国国技館を訪れた時には四横綱の人型パネルが並んでいたが、その後、横綱の暴力事件が社会問題化した。また、「横綱の碑」がある富岡八幡宮で宮司殺害事件が起こり、神道や角道(相撲道)における規範性が問題になった。さて、どう考えればいいのか?

- 第3回 9月11日(火) 歌道と文章道(もんじょうどう)―歌道意識の形成と消滅

日本には「百人一首」という文化があり、国際社会でも「日本は羨ましい程に豊潤な文化をもっている」と評判だ。將軍や大名の嗜みでもあった優雅な「うたのみち」だが、和歌の規範化・専門家・体系化・秘伝化などをめぐる歴史は、なかなかどうして大変だ。

秋期 第4回～第6回概要・申込は秋期募集案内に掲載します。

- 第4回 11月13日(火)
伝統芸術としての書道
―コンピュータ時代の書の意味
- 第5回 2019年1月8日(火)
巨大習いごと体系をもつ華道
―「きまりごと」と「きままごと」のあいだ
- 第6回 2019年3月12日(火)
茶点とふるまいの様式と
芸道としての茶道
―堅苦しさとりラクゼーション